



令和7年度 地区別住民懇談会

柳田小学校区

柳田公民館／午後6時半から

目次

01 開会

02 町長あいさつ

03 出席者紹介

04 説明

インフラの復旧・復興見通し

公共施設個別施設計画の見直し案

復興公営住宅の整備計画案

地区別復興まちづくり計画案

05 意見交換

06 閉会あいさつ

07 閉会

01

公共土木施設等の 復旧・復興見通しについて

(建設水道課長)

災害復旧事業(公災)の発注方針

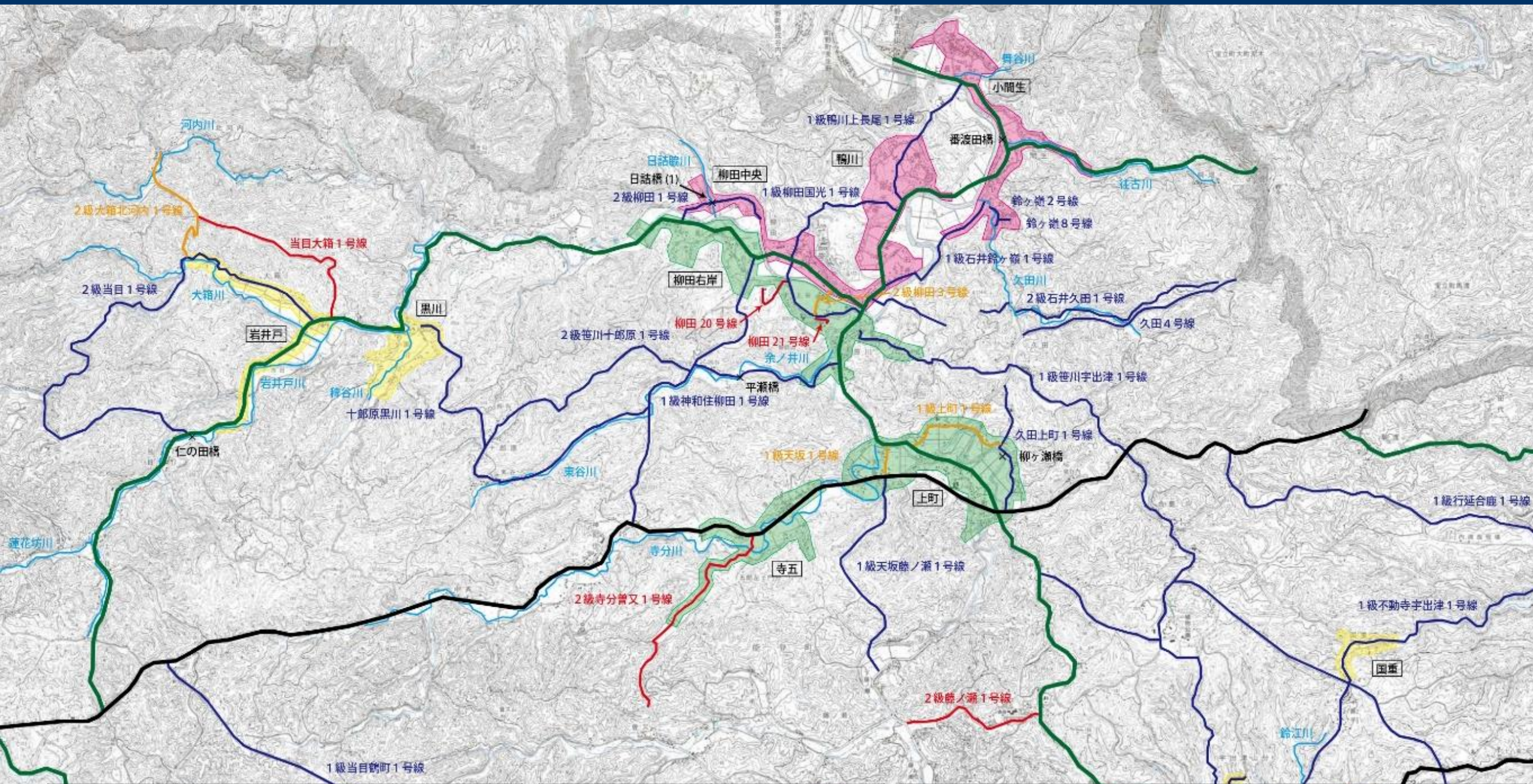
区分	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度
上水道	道路の優先度及び上下水の被災度を考慮した区域		その他地区の被災箇所	
下水道				
道路(町)	主要幹線道路（緊急輸送道路、幹線1・2級町道） 不通道路		左記以外の道路 ・ 集落内道路 ・ 生活道路等	
きょうりょう 橋梁(町)				
河川(町)	人家連担（近接）部で特に被害が甚大な区間 農地、農業用施設部		左記河川における R7年度～R8年度実施 以外の区間	

概ね完了

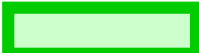
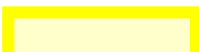
概ね完了

概ね完了

インフラ施設 復旧計画図



	普通河川	17 河川
×	橋梁架替	10 橋

優先度	下水発注予定
	R 7年度
	R 8年度
	R 9年度

優先度		路線数	発注予定
	優先度 A 路線	11 路線	7 年度
	優先度 B 路線	29 路線	7～8 年度
	優先度 C 路線	12 路線	8 年度

発注予定の時期は、
測量調査設計の進捗状況によって延期される場合があります。

主要町道復旧計画

主要町道復旧計画

(注) 発注予定の時期は、測量調査設計の進捗状況によって延期される場合があります。予定は随時更新します。

R07.11.01 時点

[illegible]

主要町道復旧計画

主要町道復旧計画

(注) 発注予定の時期は、測量調査設計の進捗状況によって延期される場合があります。予定は随時更新します。

R07.11.01 時点

[illegible]

02

農林水産業施設の 復旧・復興見通しについて

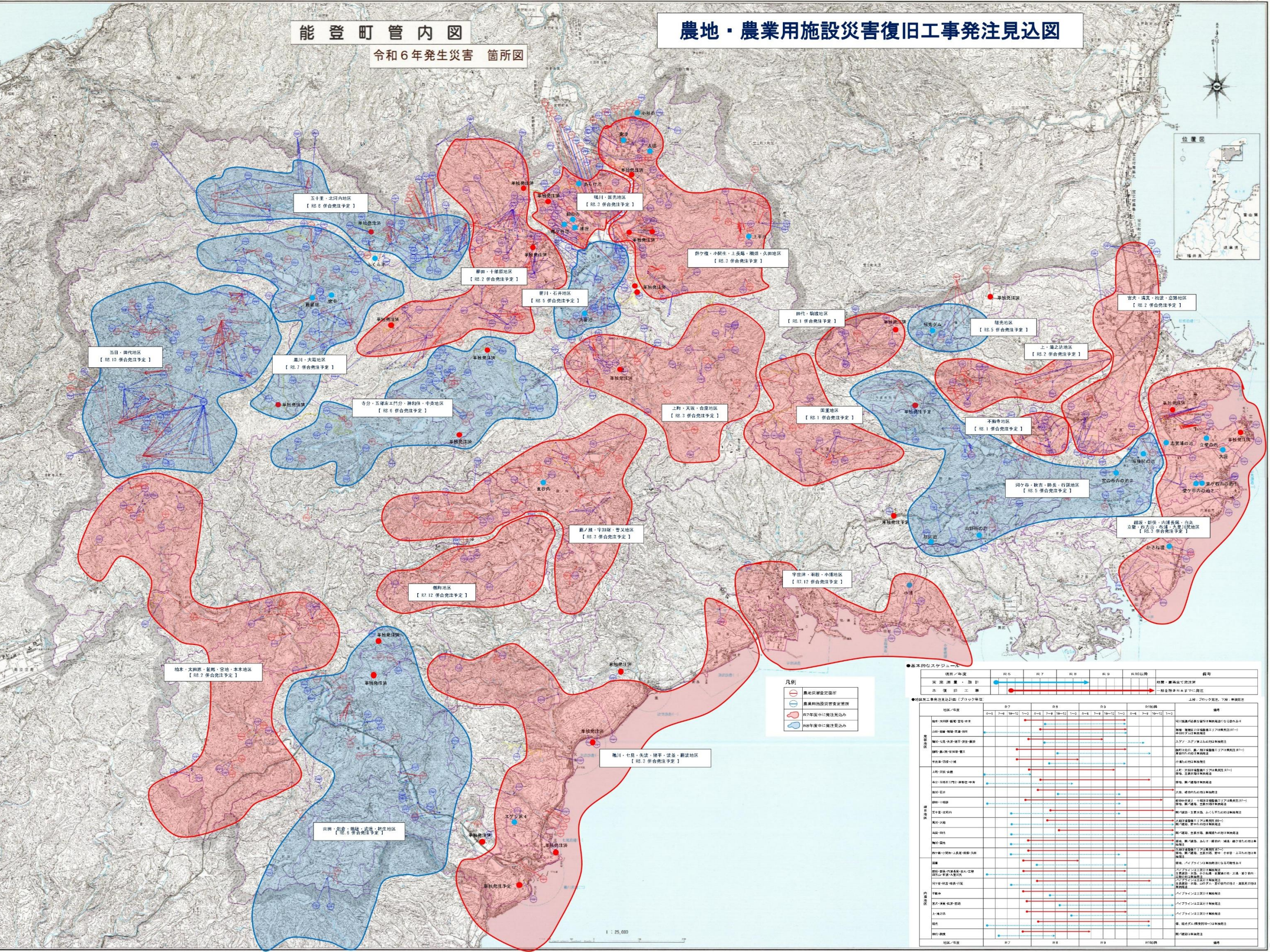
(農林水産課長)

災害復旧事業(公災)の発注方針

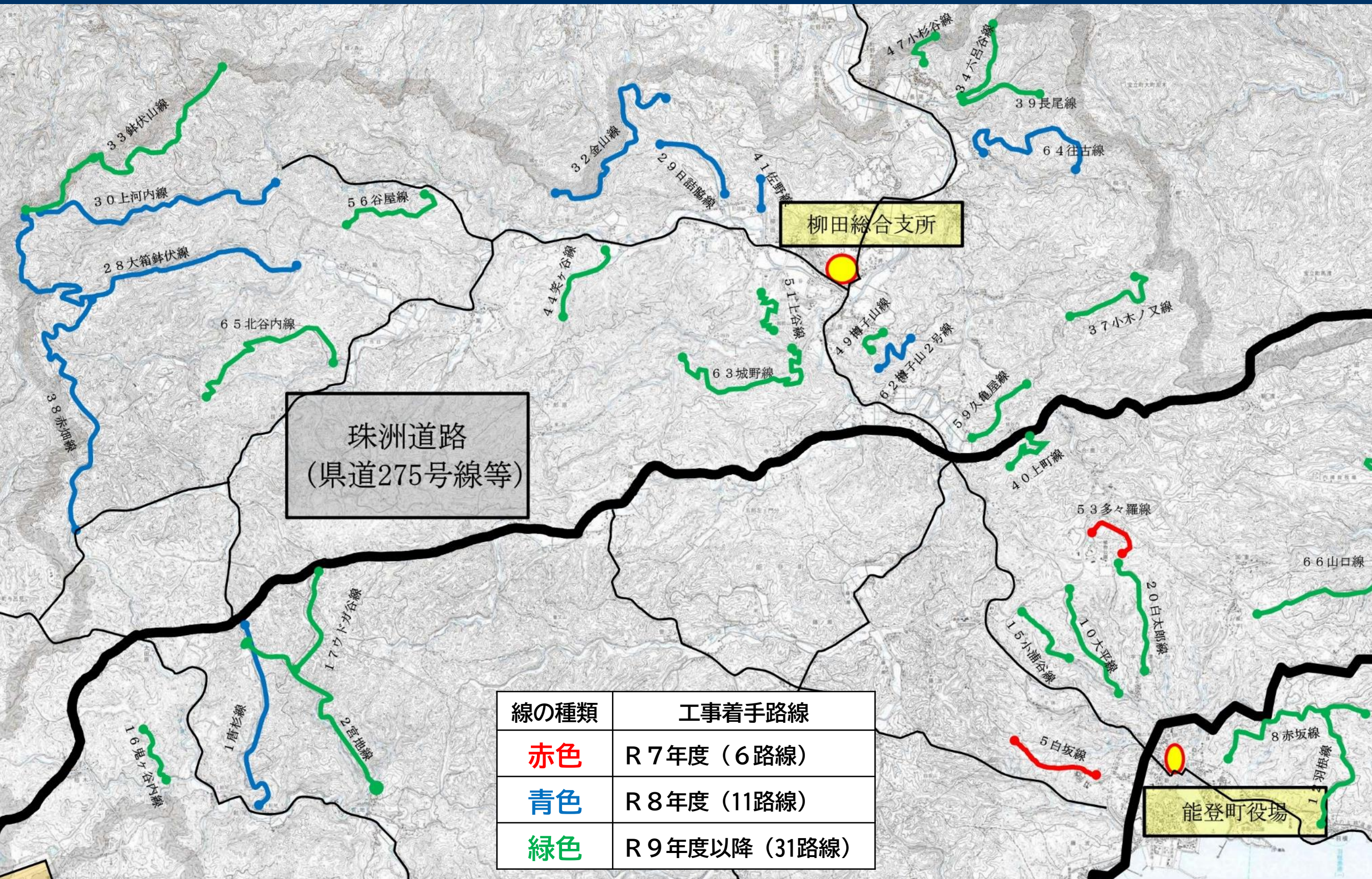
区分	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度
農林治山	各地区の営農ニーズを踏まえた 優先整備施設 避難路や幹線道路へのアクセス 路となる農道・林道 林地崩壊箇所		その他地区の被災箇所	概ね完了
漁業施設	漁業活動に不可欠な施設 背後集落に被害が及ぶ施設		その他地区の被災箇所	概ね完了

令和6年発生災害 箇所図

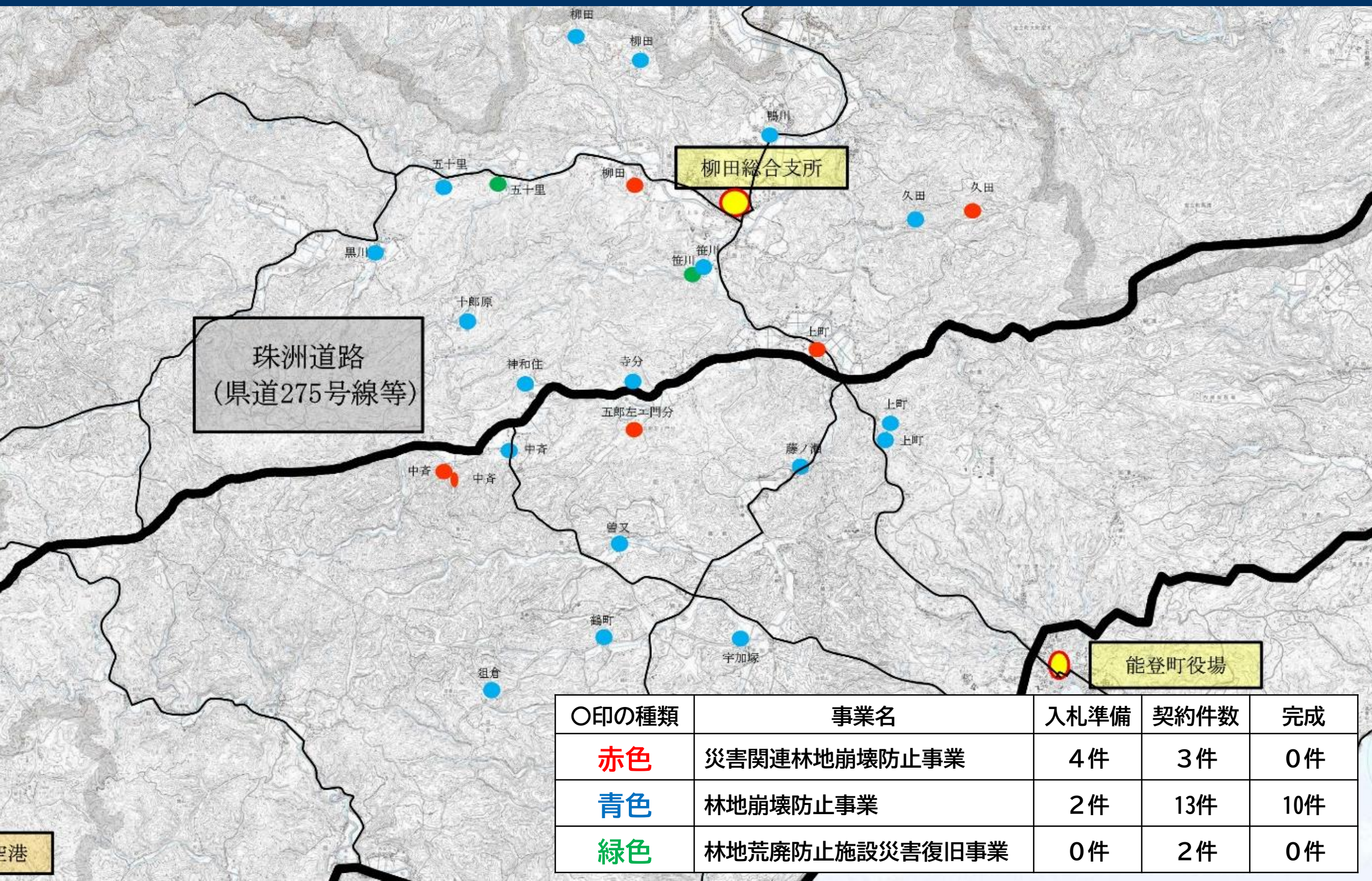
農地・農業用施設災害復旧工事発注見込図



林道 災害復旧路線位置図



治山工事位置図（34か所）



03

教育施設の 復旧・復興見通しについて

(教育委員会事務局長)

小学校施設の今後の見通し

施設名	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度 以降
宇出津小学校	 復旧工事完了				
鵜川小学校	 現在工事中、R7年度中 完成予定				
小木小学校	 復旧工事完了（R7年10月）				
柳田小学校	 入札不調が続き現在工事内容等を再検討し応札方法を調査中				
松波小学校	仮設解体・グラウンド整備 現在は仮設校舎、新築及び解体の実施設計中 仮設解体・グラウンド整備				

中学校施設の今後の見通し

施設名	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度 以降
能都中学校	 復旧工事完了				
小木中学校	 復旧工事完了				
柳田中学校	 校舎と体育館は工事中 → R 7 年中に完成予定 外構工事は発注準備中 → R 7 年度中に完成予定				
松波中学校	 復旧工事設計中 → R8年3月までに復旧工事完了予定				

公民館施設の今後の見通し

公民館名	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度 以降
秋吉	 現在新築工事発注準備中、R8年度 完成予定				
不動寺	 現在実施設計中、R8年度 新築及び解体工事予定				
高倉・神野 鵜川・瑞穂 岩井戸	 R8年度から順次建替えの設計・工事を進めて行く予定 (高倉 → 瑞穂 → 鵜川 → 神野 → 岩井戸)				

【公民館全般】 全15公民館のほぼ全てにおいて、壁のクラックや駐車場の亀裂などの被害。公民館等社会教育施設は今年度から国の災害復旧事業を開始。国に事業申請し順次復旧工事を進める。また、今後旧耐震基準の公民館（築40年越えが6公民館）建替を計画的に行う予定。

04

児童施設の 復旧・復興見通しについて

(健康福祉課長)

児童施設の今後の見通し

施設名	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度 以降
柳田保育所	 復旧工事完了、R7年度 外構工事完了予定				
こどもみらい センター	 河川災害復旧工事との調整後、R8年度 復旧工事予定				
まつなみキッズ センター	解体工事予定 R7年度 修正実施設計、R8年度 新築（改築）工事予定 R9年度 解体工事予定				

05

公共施設個別施設計画見直し について

(企画財政課長)

公共施設個別施設計画の検討概要

〈計画の概要〉

公共施設等総合管理計画：高度成長期以降に整備された公共施設の老朽化に対応し、人口減少・財政制約下でも持続可能なまちを実現するため、施設の統廃合・長寿命化方針を示す町全体の資産の戦略的管理計画（アセットマネジメント計画）。

公共施設個別施設計画：総合管理計画を受け、各施設の存廃・改修時期・ライフサイクルコストを具体化し、優先順位を付す実行プラン。

〈計画の位置づけ〉

本計画は、本町の上位計画である「能登町総合計画」、「能登町創生総合戦略」との整合性を図り、各政策分野の中で、公共施設等の取組みに対し、横断的な方針を示す計画です。

〈計画期間と検討経緯〉

現在、第1期計画を踏まえた第2期計画の策定に向けた検討作業を行っています。策定にあたっては主に令和6年能登半島地震及び奥能登豪雨による被害状況等も踏まえ、公共施設等の方針の見直しを行っています。

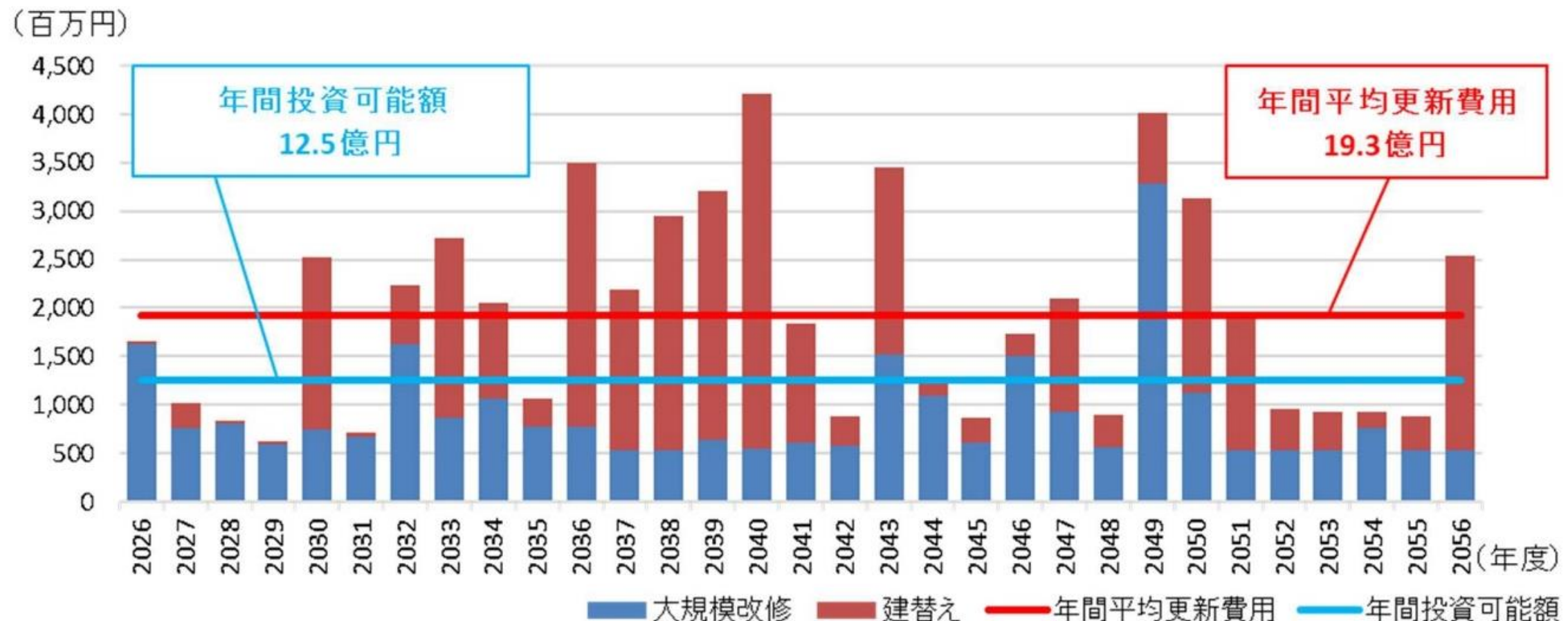
計画		2021-2030	2031-2040	2041-2050
第1期	◎能登町公共施設等総合管理計画 ●能登町公共施設個別施設計画	計画期間 2021～2040		
第2期	◎能登町公共施設等総合管理計画 ●能登町公共施設個別施設計画	見直し中	計画期間 2026～2045	
第3期	◎能登町公共施設等総合管理計画 ●能登町公共施設個別施設計画		計画期間 2031～2050	

公共施設個別施設計画の検討概要

〈将来更新費用の試算結果〉

本町の保有する建築系公共施設全施設にかかる更新費用を試算し、今後の更新必要額として「年間平均で19.3億円」が必要という結果となりました。

町の年間投資可能額が12.5億円であるのに対し、更新必要額が19.3億円となり、約36%の財源が不足するという結果となりました。



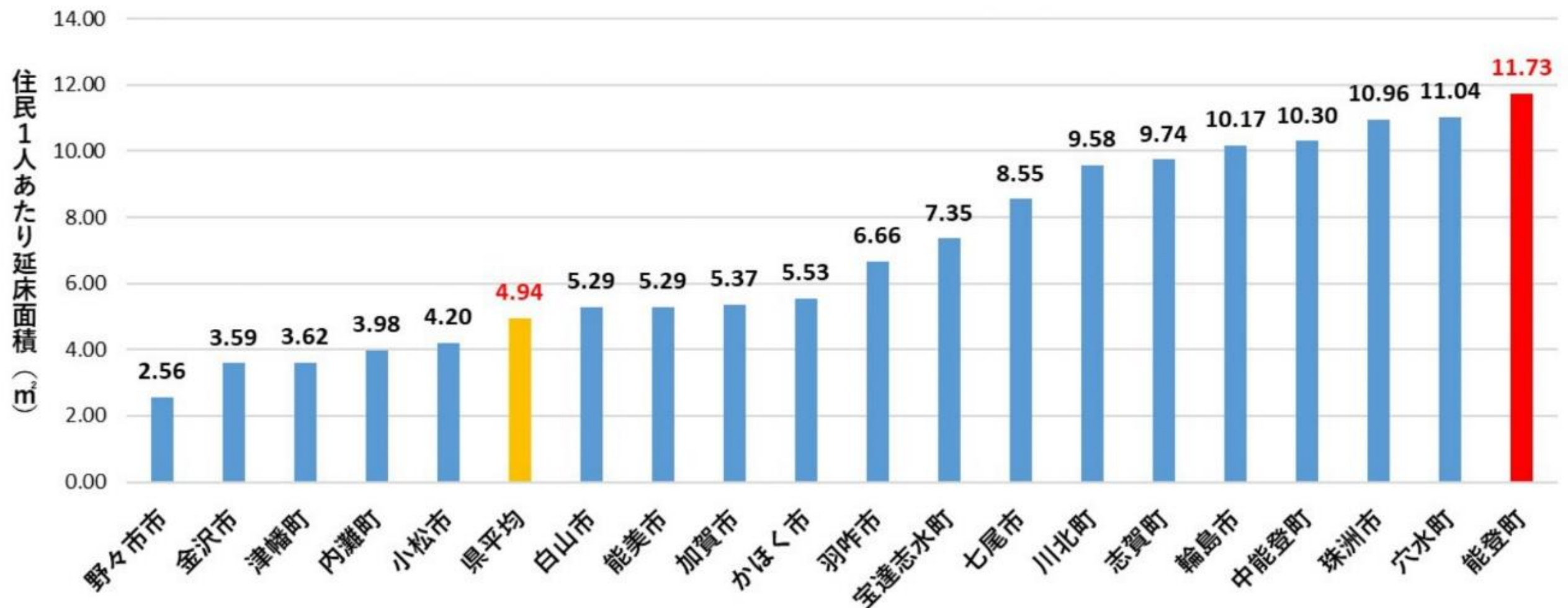
年間投資可能額 : 町の財源を勘案し、年間で公共施設の更新に充てることができる額

年間平均更新費用 : 公共施設を現状のまま保有した場合に必要な年間の更新(大規模改修、建替え等)

公共施設個別施設計画の検討概要

〈県内市町の住民1人あたりの施設延床面積〉

公表されている直近の数値では、住民1人あたりの建築系公共施設及びその他建築系公共施設（医療施設を除く）の延床面積は11.73㎡と県内で最も多く、県平均の 2.4 倍程度となっています。



出典) 令和5年度公共施設状況調査
住民基本台帳(令和6年3月)

公共施設個別施設計画の検討概要

〈本計画における数値目標(削減目標面積)〉

上記の財源不足割合を勘案し、公共施設の延床面積を計画期間内に 36%削減することを目標とします。
具体的な削減目標面積は以下の通りです。

対象延床面積	136,865 m ²
削減目標面積 ※上記面積の 36%	49,271 m ²

体育施設の再編手法・方向性(案)

【所管:教育委員会事務局】

施設名	再編手法	再編手法までの 施設のあり方	留意事項 将来の方向性
能都体育館 柳田体育館 内浦体育館	建物：除却 機能：集約化(新設)	既存の施設は除却する 新体育館建設までは、現状どおり一般開放している学校体育館での対応とする	能都(半壊)、柳田(一部損壊) 内浦(一部損壊、津波被害) 全て旧耐震施設 既存の3体育館は除却し、総合体育館を整備 総合体育館の整備場所は、柳田植物公園内で検討し、屋内プール・武道館と集約
能都野球場	建物：除却 機能：集約化(既設or新設)	能都和柳田は、震災前と同様の利用とする 内浦野球場を含めた内浦総合運動公園は、当面の間復旧工事の資材置き場等として使用する	当面は被災程度・利用状況等も踏まえ柳田野球場を維持し集約化 野球場の再整備方針は今後の利用状況等も踏まえ検討
柳田野球場	建物：維持or除却 機能：集約化(既設or新設)		
内浦野球場	建物：除却 機能：集約化(既設or新設)		

福祉施設の再編手法・方向性(案)

【所管：健康福祉課】

施設名	再編手法	再編手法までの施設のあり方	留意事項 将来の方向性
能登七見健康福祉の郷「なごみ」	建物：除却 機能：複合化・集約化（既設or新設）	既存の施設は除却し、跡地利用を促す 食堂、和室部分は施設利用の公募を行い、応札がなければ除却する	温泉とプール(大規模損壊) 食堂と和室など(一部損壊) 各小学校のプール機能を複合化し、総合体育館内に屋内プールを整備 温浴機能については民間による運営や他施設へ集約化 ※温泉とプール棟は除却 ※復興期において、民間の活用状況から和室と食堂部分などを残すことも検討
七見デイサービスセンター（なごみ併設施設）	建物：維持(譲渡・貸付)or除却 機能：廃止	施設利用の公募を行い、応札がなければ除却する	被災程度が小さいため、譲渡、貸付を検討

観光施設の再編手法・方向性(案)

【所管:ふるさと振興課】

施設名	再編手法	再編手法までの施設のあり方	留意事項 将来の方向性
国民宿舎能登うしつ荘	建物：民間譲渡or除却 機能： 集約化(やなぎだ荘)	震災前と同様に維持	民間参入を優先(宿泊機能がメイン) 宿泊施設に対する補助金制度の創設など、企業誘致に向けた取組を進める
国民宿舎能登やなぎだ荘	建物： 【宿泊棟】更新or除却 【御前】除却 【温泉】複合化or除却 機能： 【宿泊棟】 集約化(うしつ荘) 【温泉】 複合化(笹ゆり荘)	宿泊棟は維持とするが、当面の間は復旧・復興事業者の宿泊を優先する 温泉部分は、震災前と同様に維持する	宿泊棟(一部損壊) 御前(全壊) 民間参入を優先(宿泊・温泉機能) 宿泊施設に対する補助金制度の創設など、企業誘致に向けた取組を進める 温泉施設として考えた場合、民間参入を優先 笹ゆり荘との複合化等検討

観光施設の再編手法・方向性(案)

【所管:ふるさと振興課】

施設名	再編手法	再編手法までの施設のあり方	留意事項 将来の方向性
ふれあいの里施設 (レストラン花菖蒲、ふれあいハウス、合鹿庵、売店)	建物： 【合鹿庵・売店】維持 【花菖蒲】民間譲渡 【ふれあいハウス】転用 機能：維持・集約化・転用	震災前と同様に維持 ふれあいハウスは屋内遊具施設として改修	合鹿庵、売店は維持 レストラン花菖蒲は民間による利活用を検討 ふれあいハウスは屋内遊具施設へ転用

06

復興公営住宅の整備計画 について

(復興住宅課長)

復興公営住宅の基本的な整備の考え方（全体計画）

整備方針	『能登町復興計画』（令和7年2月策定）で定める「再生と創造に向けた5つの柱」の分野別取組「くらしと地域コミュニティの再建」に位置づける「復興(災害)公営住宅の整備」を達成するため、「石川県復興公営住宅整備指針」を基に、 <u>地域特性や新しいコミュニティ形成、高齢者・障がい者等に配慮しつつ、安全・安心な生活環境</u> が持続する、良質な住まい(復興公営住宅)を供給するものです。
全体計画の 目 標	整備計画期間は能登町復興計画を基に、被災世帯の意向を確認した上で、ニーズに対し過不足のない復興公営住宅を整備します。
考 え 方	被災者ニーズとともに、能登町の都市構造や公的住宅ストックの状況および将来の住宅需要を見越して、地区別の供給戸数を計画します。
既存公的住宅 戸 数	215 戸（令和7年9月時点 用途廃止予定を除く）
整備計画 戸 数	260 戸（令和7年度に実施した意向調査の結果より供給戸数を設定）
整備地区設定	整備地区設定や具体的な整備場所は、意向調査において被災世帯が希望された地域・地区を基に、生活の利便性や住環境を重視し選定します。

校区別戸数

● 復興公営住宅整備戸数



校区名		計画戸数 (R7.11時点)	既存公的 住宅戸数	将来公的住宅 ストック総数
宇出津 校区		58 戸	90 戸	148 戸
鵜川 校区		32 戸	42 戸	74 戸
柳田 校区		70 戸	50 戸	120 戸
松波 校区	白丸以外	60 戸	21 戸	81 戸
	白丸	20 戸	—	20 戸
小木 校区		20 戸	12 戸	32 戸
合計		260 戸	215 戸	475 戸

意向調査結果による整備戸数の整理



〇意向調査結果(校区・公民館別の詳細状況(244 件))

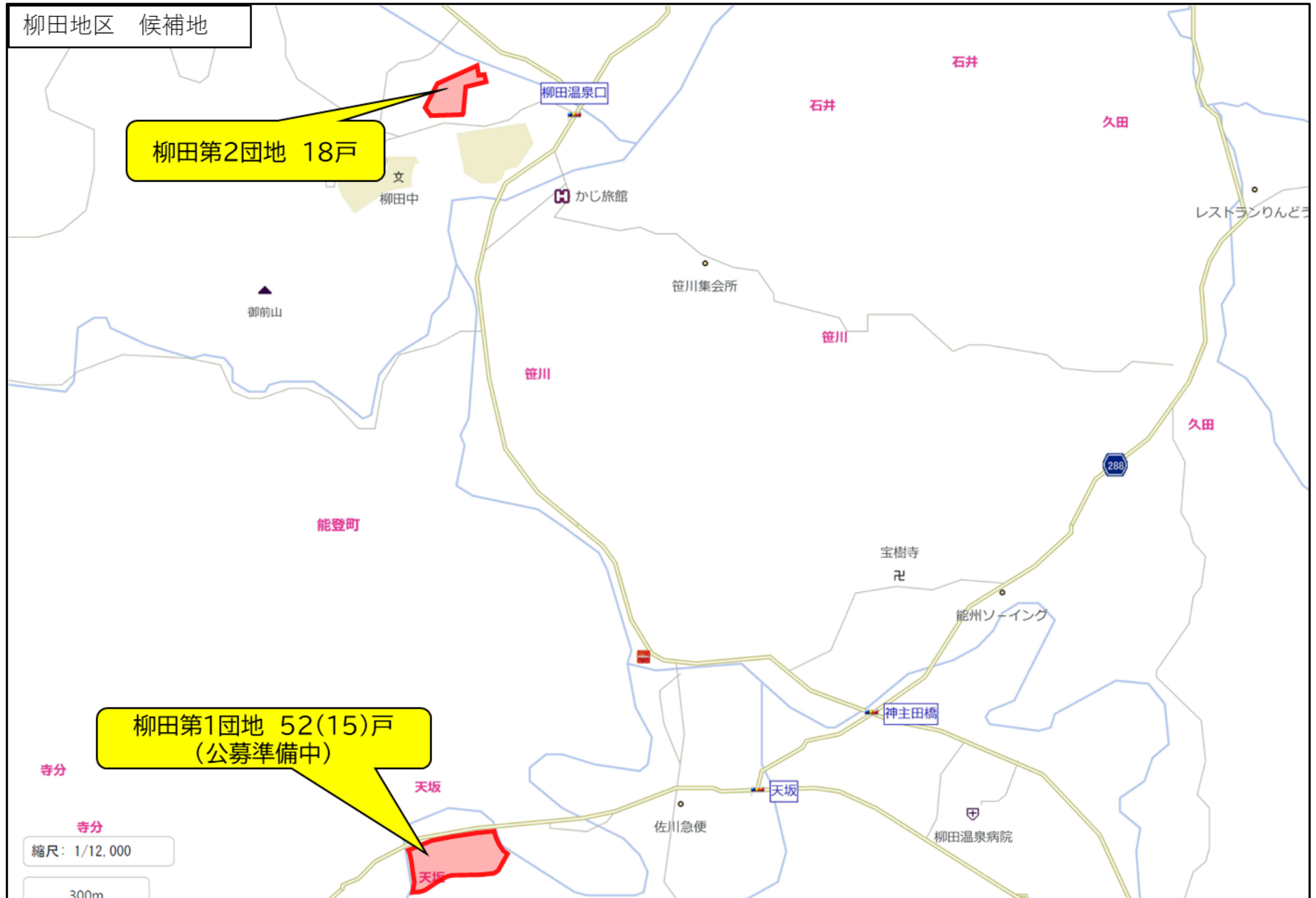
校区・公民館別の計画団地一覧

2025.11.25時点

校区別	計画戸数	地区別	詳細計画戸数	住戸形式	入居時期(予定)	整備状況
宇出津	58	宇出津第1団地 (旧しらさぎ保育所)	30	中層共同	R9年4月	設計中
		宇出津第2団地 (漆原町)	8	低層長屋	R9年度	用地交渉中
		宇出津第3団地 (濱町)	16	中層共同	R10年度～	護岸・道路 工事完了後
		宇出津第4団地 (大竹町)	4(1)	低層長屋	R10年度～	護岸・道路 工事完了後
鵜川	32	鵜川団地 (鵜川支所裏)	24	低層長屋	R10年度～	用地検討中
		瑞穂団地 (旧瑞穂小中学校跡地)	8	低層長屋	R9年度	発注方式 検討中
柳田	70	柳田第1団地 (天坂及び五郎左工門分)	52(15)	低層長屋	R10年4月	公募準備中
		柳田第2団地 (建設仮設やなぎだ第1団地)	18	低層長屋	R11年度	他団地 完成後
松波	80	松波第1団地 (旧サロニカ駐車場跡地)	27	中層共同	R9年4月	設計中
		松波第2団地 (旧シメノドラッグ跡地)	24	低層長屋	R9年度	用地交渉中
		松波第3団地 (建設仮設まつなみ第2団地)	9	低層平屋	R11年度	他団地 完成後
		白丸	20	低層長屋	R9年度	基盤 設計中
小木	20	小木	20	低層長屋	R10年度～	用地検討中
合計	260	13団地	※()内、調整戸数を示す(内数)			

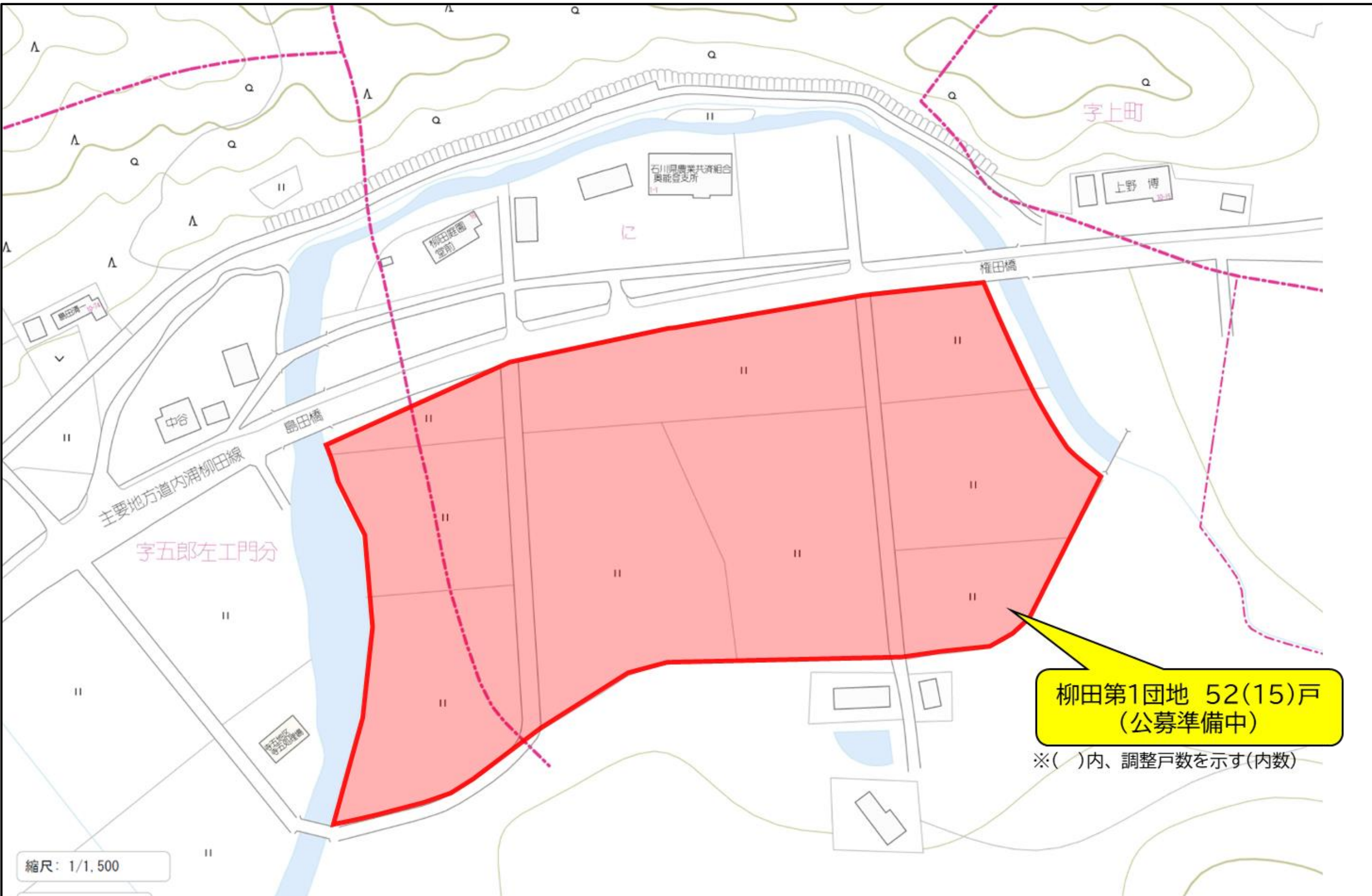
柳田校区 | 団地全域

2025.11.25時点

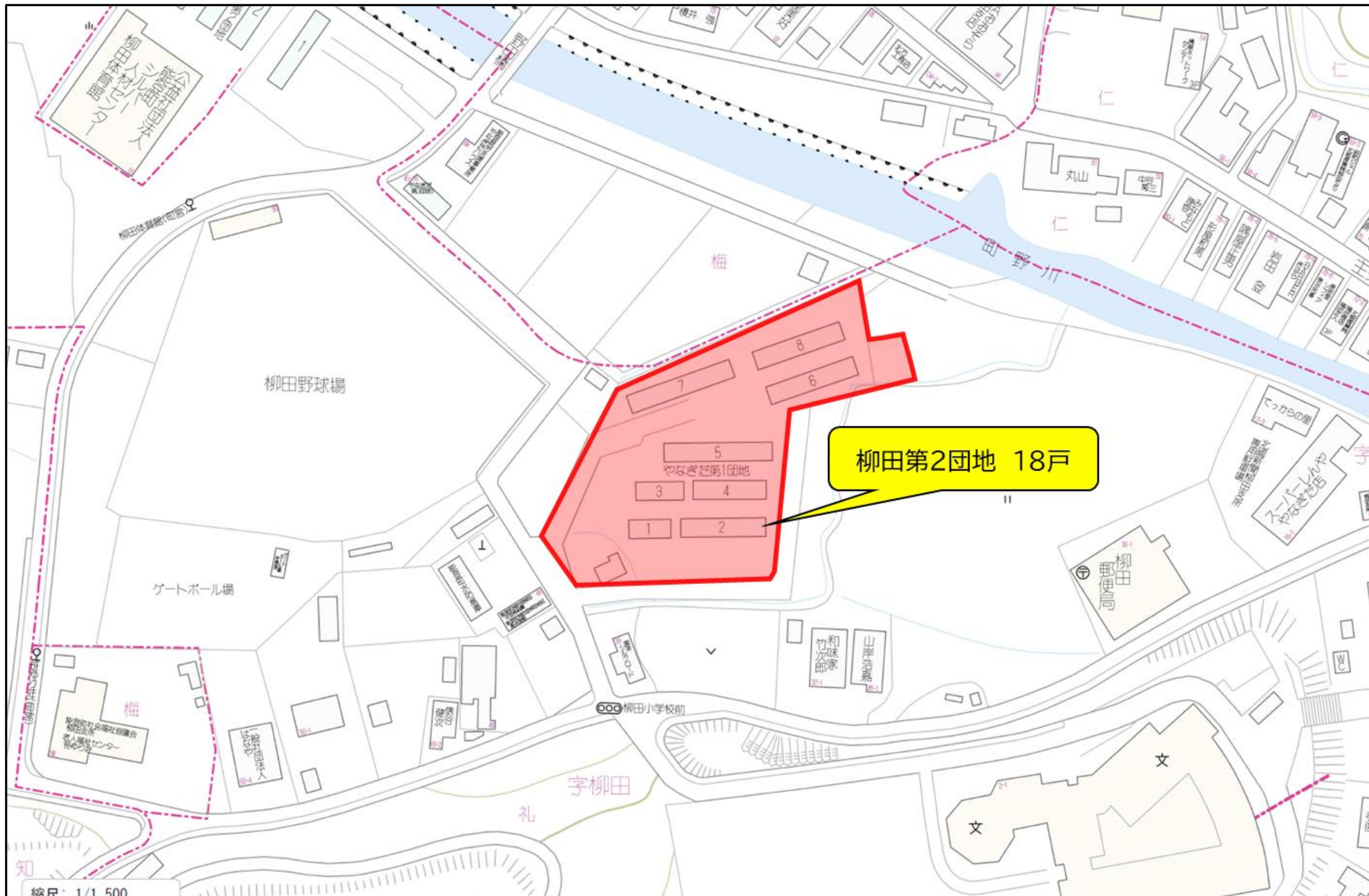


柳田第1団地（天坂及び五郎左工門分）

2025.11.25時点



柳田第2団地 (建設仮設やなぎだ第1団地跡地)



07

地区別復興 まちづくり計画について

(復興推進課長)

柳田地区

柳田・上町・小間生・岩井戸公民館区
復興まちづくり計画案(概要)

策定目的

5小学校区を計画対象としています。
令和7年度から令和14年度までの8年間を計画期間とします。

能登町復興計画

再生と創造に向けた5つの柱

令和7年2月策定

インフラの早期再生
と強化

くらしと地域コミュ
ニティの再建

生業(なりわい)の
再建

安心してくらし続け
られるまちづくり

復興プロジェクトの
創出

地区別復興まちづくり計画

各地区の個性や特徴を生かしたまちづくりの実現

宇出津地区

柳田地区

松波地区

小木地区

鶴川地区

策定までの経緯

- 14名の委員が参加する「柳田地区復興まちづくり協議会」で議論を行いながら、計画策定を進めました。委員は、町会区長会連合会代表、小学校 PTA 関係者、公民館関係者、町復興推進委員、一般公募等より選定しました。
- 復興ディレクターとして片桐先生に参画・支援いただきながら計画策定を進めています。
- 策定経過はニュースレターで町民の皆様に周知しながら進めてきました。

復興ディレクター（学識者）紹介

金沢工業大学
工学部 環境土木工学科 准教授

かたぎり ゆきこ
片桐 由希子

【柳田地区との関わり】
柳田植物公園遊具整備事業アドバイザー

協議会の様子



ニュースレター



5月

第1回柳田地区まちづくり協議会 5月27日

計画の概要・検討スケジュール等を共有した上で、柳田地区の魅力や資源、復興の先の未来の姿を意見交換しました。

7月

柳田地区住民ワークショップ 7月24日

町民の中から参加者を募集（26名参加）し、2つのテーマ（柳田を住み続けられる地域とするには、柳田に関わる人を増やすには）で意見交換しました。

10月

第2回柳田地区まちづくり協議会 10月1日

第1回協議会やワークショップでの意見を踏まえ事務局が作成した計画骨子を基に、目指すべき将来像や復興まちづくりの施策を意見交換しました。

11月

第3回柳田地区まちづくり協議会 11月12日

事務局が作成した計画案を基に、重点事業のうち、地域で次年度から着手を目指す取組の具体化に向けて意見交換しました。

12月

計画完成予定

目指すべき将来像

四季に彩られた暮らしと人のつながりが新たな価値を生み出す 柳田

里山の四季折々の恵みに育まれた生活や文化を楽しみながら、これからもゆったりとした暮らしを続けられる地域づくりを進めます。厳しくも豊かな自然に培われた地域の絆や、穏やかでしなやかに強い人柄を活かして、こどもから高齢者までが互いに支え合うコミュニティづくりを進めます。里山の恵みを次世代に受け継ぐために、農林業に先端技術を取り入れるとともに、担い手の育成を進めます。また、里山の暮らし・文化を体験し、学べる環境を提供することによって、新たに地域との関わりを持ってくれる人を受け入れ、つながりを育む地域づくりを進めます。

基本目標

- 1) 里山の恵みとともに暮らし続けられる地域づくり
- 2) 里山の暮らしと人のつながりから広げる交流環境づくり
- 3) 新しい農林業のあり方を学びチャレンジできる地域づくり

復興まちづくりの施策

- 復興まちづくり協議会や住民ワークショップでの地域からの意見と復興計画を踏まえて、特に重点的・先導的に取り組むべき事業を「重点事業」として設定しました。

重点事業1

広域的なレクリエーション・防災拠点
としての柳田植物公園の機能向上

柳田植物公園を奥能登における広域的なレクリエーションの拠点として、地域のにぎわいを創出する大規模イベントなども実施できるように機能向上を進め、総合体育館等の整備を検討します。また、里山等を活かした様々なアクティビティなどについても民間事業者等との連携によるサービスの提供を検討します。さらに、震災の経験を活かして、防災拠点として機能向上を進めます。



柳田植物公園（広場）

重点事業2

温泉資源を活かした地域交流の場
としてのやなぎだ荘の再生

国民宿舎能登やなぎだ荘は、観光客のための宿泊観光施設としてだけでなく、地域の方々の温泉を通じた憩いや宴会などの地域交流の場として親しまれてきました。まずは、通常営業の再開を目指し、町の公共宿泊施設の見直しに併せて、将来的には笹ゆり荘との複合化や、民間事業者による運営継続に向けて、やなぎだ荘の再生方法を検討します。



国民宿舎能登やなぎだ荘

重点事業3

新しい農林業のかたちによる地域づくり

農林業を核としたまちづくりとして、農林業のスマート化・DX等の先端技術の導入に向けて、地域全体で大学等の教育機関とも連携した人材の受入れ及び育成を進めます。また、里山の資源や文化を活かしたアグリツーリズム・エコツーリズム等の推進により、地域を訪れるファンの獲得を目指します。



能登高校柳田校舎 農業実習

意見交換

01 インフラの復旧・復興の見通し

02 公共施設個別計画の見直し案

03 復興公営住宅の整備計画案

04 地区別復興まちづくり計画案

本日はありがとうございました。
お気をつけてお帰りください。

